

2004 年 (平成 16 年)  
10 月 1 日 金曜日 (毎月 1 日発行)  
1 部 50 円 (消費税込・送料別)  
発行所/天台宗出版室  
発行人/出版室長 工藤 秀和  
〒520-0113 大津市坂本4-6-2  
天台宗務庁内  
電話 077-579-0022 (代)  
Eメール/T-Press@tendai.or.jp

一隅を照らす運動推進会報  
(一隅推進会員)  
年費会費 (2500 円) 中に会報  
(天台ジャーナル) 購読料を含む。

極微ごくみ

世界保健機構(WHO)の調査によると、日本人の自殺率は世界十位だそう。前回、九九年の調査では、九九年の調査では、四十五から六十四歳の中高年男性の自殺者が急増したと。不況、仕事上のストレスが大きな原因だとWHOは分析している。

その通りだろう。悲しい現実である。十五歳で下半身不随になり、アテネ・パラリンピックで、二大会連続のメダルを獲得した広道純選手は、インタビューでこう言っていた。「事故で、一度死にかけた。たつぷり喜んで生きなくては、命に失礼や」と。

◎第十八回世界宗教者平和の祈りの集い  
——イタリア・ミラノ

九月五日から七日まで、イタリア・ミラノにおいて「第十八回世界宗教者平和の祈りの集い」が開かれた。泥沼化するイラク情勢や混迷を深める中東パレスチナ問題については、もちろん、地球上に頻発する紛争や貧困に宗教者は何をなすべきかをめぐり、各宗教の立場から様々な提議がなされた。世界の宗教者が、より一層相互理解を深め、力を合わせ、平和実現のために祈ることの重要性がクローズアップされた集いとなった。

今回の「集い」の主催はカトリックの信仰団体である聖エジディオ共同体。天台宗から  
らは、天台座主名代として半田孝淳探題大僧正や西郊良光天台宗宗務総長ら、二十四人が出席した。代表団は、世界から集まった宗教者と真剣な意見の交換



ミラノ市街を平和行進する各宗教代表者。左端は西郊良光天台宗務総長

席上、半田大僧正は二十世紀が「戦争と大量殺戮の時代」であったこと、また今世紀は現代の世界情勢からみると「憎悪と報復の時代」であると指摘。さらに、現在の紛争の根底に宗教対立があるという見解に言及し、「それは、テロや戦争を仕掛ける側の巧みな大義のすり替えにほかならない。宗教は戦争やテロに正当性を与えるものでなく、強い抑止力になるべきである」と主張した。特に、唯一の被爆国である日本の立場から、核兵器の永久根絶を強く訴えた。

そして、宗祖伝教大師の「忘

また、西郊宗務総長は今回の集いの総合テーマである『宗教と文化・新ヒューマンズム』について『関連して「天台宗のヒューマンズム」と題する講演を行った。その中で、現代の抱える諸問題、人権、臓器移植、死刑制度などに触れ、それぞれ仏教、特に天台宗としての立場からの見解を明らかにした。

また、宗教とヒューマンズムの関係について「ヒューマンズムを持たない宗教はあり得ない。外周をヒューマンズムが取り巻き、内側の核が宗教であろう。例えば、故マザー・テレサの無償の行為は常に神によって支えられていたことからも同心の外側はヒューマンズム、核が宗教であることが分かる」と見解を述べた。そして、ヒューマンズムが人間の善性に基つき、仏教がその善性を更に大きく、強固に育てるものであることを主張した。

最終日には出席した世界の宗教者がミラノ各地に分かれて祈りを捧げた後、一つに合流し、世界平和を真摯に希求する平和行進を行った。

ヒューマンズムの中心に宗教が

己利他」の深い精神性に立脚した宗教者としての「平和への使命」を訴えた。この論旨

法の灯 一切衆生悉有仏性

平成十三年秋に、住職五十年の白毫寺に別れを告げた。寺は息子に譲り、私は新しい寺に移った。前の寺には、心字池があつて、太鼓橋が架かつている。勾配の急な太鼓橋で、横の手すりを持たなければ上ることが出来ない。寺は山奥にあるが、参詣の方々が連日、バスで訪れることもある。そのたびに「この池や、庭は京都の古寺にも見受けられる造りです。池の

の池に突き落とされるぞ、ということを実現しているのです」と説明する。一千三百年続いているこの寺も以前は法相宗に属していたという。長い歴史の中にはいろいろと不思議な事もあつたりして、話せば参拝者も興味を持って聞いてくれる。だが私が必ず語るのは、一切衆生悉有仏性ということであり、それに基づいた生き方、即ち、人間は一人では生きていけないが、同時に人に迷惑をかけることが大切だということである。

「二百十日」、あるいは「二百二十日」などといったも、近頃は通じないことが多い。農家の三大厄日とされている、台風襲来の特異日のことである。

立春から数えての日数で、毎年九月一日や十一日頃がその日にあたる。かつては、節分・八十八夜・彼岸・入梅・土用などと共にポピュラーな言葉だったが。

今年も、本日に二百十日の言葉どおり、台風がよく襲来した。七つ以上もの台風が上陸したのは観測史上初めてという。各地の被害も甚大で、罹災された皆さまには心よりお見舞い申し上げる次第であ

る。

科学万能の現代でさえ、台風をよける手だてがないのだから、昔はその脅威は計り知れなかった。特に農業に従事する人々は厄そのものだっただろう。

富山には「ふかぬ堂」という風神堂が十数箇所ある。大風が吹かぬようにと願って祀ったものであろう。谷間などに、風が吹きおろすフェーン現象の顕著な地域に分布している。ふかぬ堂とは、ちよつとユーモラスな名前だが、大風に襲われる側にしてみれば、必死の祈りを込めるお堂であった。

また和歌山県を中心に、マ

グニチユードが強い地震も頻発している。台風と違って、情報が全くない所に、いきなり始まるのであるから、気持ちが悪い。こちらも、今のところ避ける手だてはない。そう思えば、人間というのは、自然の前には小さな存在だと思わざるをえない。

古来より、日本人は自然に神が宿ると考えていた。その荒ぶる神を鎮めることが、宗教や祭りの根っこにある。

科学の発展は多に歓迎するが、「今日も一日、皆が無事でありますように」と手を合わず謙虚な姿勢も、忘れなようにしたい。

### 『ふかぬ堂』

天台宗出版室長

工藤 秀和

## 鬼手仏心



### 花想 風言

ハギの咲く風情はいかにもお寺の境内にはびつたりだ。群れ立つ若芽の春、小花が咲く初秋、さびれた晩秋の黄葉と四季それぞれのすがたも悪くはない。

初秋の埼玉・秩父の坂東三十三所巡礼道をとると、身の丈より高い数株のハギが白や赤紫の蝶形花をつけて、枝垂れている景色に出会うことがある。

秋の七草に数えられるハギは六十種を数えるが、意地悪く凶鑑を引けばマヌケ科落葉低木で草ではないのだ。茎の下部は木質化するとあって、どうやら秋草の類には入りそうもない。

叡山の小僧のころ、お使いに出かけた洛北・赤山禅院付近の民家

### 第7回 ハギ 福田徳衍 (文・写真)

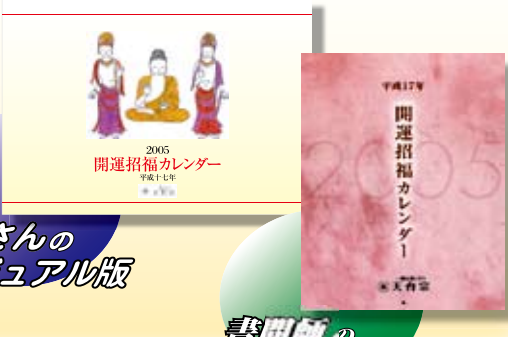
◆プロフィール  
五六年東京生まれ。土蔵から十二歳まで比叡山で小僧生活して過した。元朝日新聞記者、信濃教区新潟部、徳法院住職。俗名 福田徳郎。

の数軒には、庭に通じる小径にハギの枝折り戸や生け垣が作られていて、子ども心にも「風流とはこのことか」という清楚な気分が伝わってきたものだった。

後年、大学のゼミに史蹟踏査という日帰りの遠足があつて、一日、京都市内だったか、ハギの茎で聳かれた天井のある茶室を見学し、ハギの若芽を摘んだ「秋茶」を振る舞われたことがある。

その場所がどこだったか、いまになつては半世紀も前のことで、茫洋とした過去の記憶に漂うだけだ。

## 平成17年版 開運招福カレンダー 出来ました!



はなさんのビジュアル版

書問師の墨書版



本年度の天台宗「開運招福カレンダー」が完成しました。今年度は、二種類のカレンダーを販売いたします。天台宗東京教区・正観寺住職で書家の書問玄明師筆による墨書カレンダーと、タレントのはなさんがイラストを担当したビジュアルカレンダーです。

書問師バージョンは、落ち着いたピンク色の台紙に、墨痕鮮やかに書かれた「心の安らぎこそ 最上の幸せなり」(法句経)、「己を忘れて 他を利する」などの法語が月々のカレンダーと共にあるタイプ。



はなさんのビジュアルバージョンは、「仏像が大好き」という彼女が個性を生かして描いた仏さまのイラストに「みんな いっしょに いきようね」、「ふわ〜とおおきな雲にのって めざせ 平和で happy」など、現代風にアレンジされた仏教メッセージがかわいい「しっとりポップ」なカレンダーです。若い人々から、高い好感度で迎えられているはなさんの感性は、圧倒的な支持を受けています。

どちらのカレンダーも、年末年始のご挨拶に、寺院を訪れる檀信徒の皆さまに、最適のお供養品。価格も、天台宗出版室直販ですから、墨書カレンダーは80円、ビジュアルカレンダーは200円(税込み・送料別)と、リーズナブルです。是非ご利用下さい。

今月初旬に、各御寺院様に、それぞれ一部づつ見本を贈呈致します。なお、本年度から、一般の皆さまにも天台宗のホームページを通じて、インターネット販売を開始いたします。是非ご覧の上、お申し込み下さい。 <http://www.tendai.or.jp/> (10月1日更新)

インターネットでも販売いたします。  
<http://www.tendai.or.jp/>  
見てね!

# 談話室

## 仏教の散歩道



ひろ さちや

をわの支や巻多  
問かそいち巻多  
点説幅いさ8多  
々視く「心経な  
様なすは「心経な  
家のや口受に若  
作仏かりて書般の  
作仏かりて書般の  
作仏かりて書般の

篠原令著『妻をめとらば韓国人!?』という本を読みました。著者は、韓国人女性と結婚した日本人男性です。日本と韓国は隣同士の国ですが、その国民性(ものの考え方)は大きく違っています。その考え方の違いから生じるトラブルが、いろいろと報告されています。

たとえば、韓国人は派手好きで、見栄っばりで、虚栄心のかたまりです。いえ、わたしも言っているのではありません。著者の篠原氏の言葉を、わたしが引用したのです。韓国では、人を評価する基準はまず「見てくれ」だから、ちよつとした散歩、スー

## われら 在日仏教人

と同時、この日本人男性が韓国で生活するときの苦労も、この本には書かれています。在日日本人にも、いろいろ苦労があるのです。ところで、在日韓国人の苦労、在日日本人の苦労といった言葉から、わたしは、ふと、

奥さんである在日韓国人はいろいろ苦労をしているのですね。と同時に、この日本人男性が韓国で生活するときの苦労も、この本には書かれています。在日日本人にも、いろいろ苦労があるのです。ところで、在日韓国人の苦労、在日日本人の苦労といった言葉から、わたしは、ふと、



(カット・伊藤 梓)

争社会ですから、日本人であれば競争の勝者になりたいといった願望を持ちます。だが、仏教人であれば、「競争は悪だ! 競争してはならない!」と考えます。また、日本人は飽くなき欲望を持ち、その欲望を充足させようとして、欲望を充足させることと幸福になれると信じています。けれども仏教人は、

争社会ですから、日本人であれば競争の勝者になりたいといった願望を持ちます。だが、仏教人であれば、「競争は悪だ! 競争してはならない!」と考えます。また、日本人は飽くなき欲望を持ち、その欲望を充足させようとして、欲望を充足させることと幸福になれると信じています。けれども仏教人は、

然、苦労は大きいでしょう。それは仕方ないことです。そこで、わたしたちは「在日仏教人」を自覚しましょう。日本に住んでいる以上は、完全に仏教人として行動できません。かといって、仏教人であることをやめて日本人になっってしまうのはよくない。苦労しながら在日仏教人として生きよ。それが仏教者としての生き方だと思えます。

「葉上大阿闍梨が『ポストにベスト』とよく言われていた。これまでも、自分なりに一筋に頑張ってきました。これからも、誠心誠意勤めた。こう思うのもA型人間の特徴かな。」

「開宗千二百年慶讃大法会で、天台宗が展開している檀信徒総授戒では、伝戒大和尚をお勧め頂いております。『慢心が出ないように気をつけています。それぞれの人の心に残る授戒にしたいかな。魂を打ち込んでゆきます。』七十八歳。」



別請豎義により探題に上任が決まった

## 森川 宏映師

毘沙門堂門跡門主

先月二十八日から始まった別請豎義で探題上任が決まった。探題とは、天台座主を含む天台宗の最高法階。渡邊惠進、天台座主、半田孝淳大僧正、小堀光詮大僧正に続いて森川宏映大僧正は四人目となる。これまで比叡山では、聖と俗との接点、というより「俗事の切れ者」でなければ務まらない部署を歩いてきた。菅林閣係に二十五年、比叡山高校の校長を十六年、延暦寺学園長を三年、奥比叡ドライブウエーの社長を四年とい

う具合である。「最初は地下足袋とナツパ服、次は背広にネクタイです。おかしなものでね、そんな生活が長いと、服のほうから自分の体にビタッと合ってくる。」

「戸津説法もそうですが、毘沙門堂の門主に推薦された時、私のようなものでよいのか、辞退すべきかと随分悩んだ。しかし、延暦寺に縁があり、これまでの仕事も延暦寺組織の中でやってきましたから。色々悩むのは、A型人間の典型です。すべては、仏さまのおはからいと思ひ、謙虚な気持ちで、皆さまのお力ぞえを得ながら勤めたいと。」

遠藤新兵衛商店

〒600-8334  
京都市下京区油小路通六条南入

電話 (075) 351-1367  
FAX (075) 351-1476

総本山延暦寺御用達

The Tandai Journal 天台ジャーナル

檀信徒の皆さまへの発送を代行します

本紙は、4月23日付で第三種郵便物に認可されました。認可により、全国への送料が一律に60円という割引料金が適用されます。この機会に、是非檀信徒の皆さまにも配布を頂きたく、定期購読のお願いを申し上げます。

なお、毎月の発送が煩雑とお考えの御寺院様のために、天台宗出版室では発送業務の代行をいたします。詳しくは、出版室にお問い合わせ下さい。

〒520-0113 滋賀県大津市坂本4-6-2  
天台宗務庁 総務部 出版室  
☎ 077-579-0022 FAX 077-578-4814

お問い合わせ

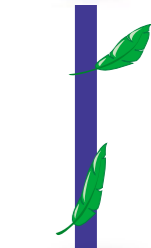


# A Story in the Tendai

## 喜びの音がこころの耳に響くとき

佐賀・岩蔵寺住職 中村 勝俊 師

# 仏と生きる



VOL.10

田んぼの続く道を、中村勝俊さんが行く。  
 ゆっくり、ゆっくりだが、檀家が知らせてくれた法事に間に合うよう、時間の余裕は充分にとつてある。知人が、うしろから声をかけても、知らん顔である。ひたすら、前を見て歩いてゆく。佐賀県小城岩蔵寺の中村住職は、耳が全く聞こえないのだ。しかし、「今まで生かしてもらったし、今も、こうして生きて、仕事が出る。有り難いことや」という。中村住職が、全く聴力を無くしたのは、今から九年前の平成七年夏のことだった。

### 大手術からの現役復帰

中村住職は、生れながら、右の耳に障害があった。それに気づいたのは、中学生の時である。当時は、軍国教育真っ盛りの頃で、全校生徒が校庭で行進訓練をさせられていた。

教官の「右向け、右、前へ進め」の号令に、中村さんひとりだけが、逆の方へ行進した。飛んできた教官に「貴様、なめとるのか」とサーベル付の歩兵銃で、いやというほど張り倒された。

教官室に引張つていられ、懐中時計を耳にあてがわれた時、右耳からは何の音も聞こえてこなかった。「お前の右耳は、ダメやな」と言われた。その時に、初めて右耳が聞こえないと分かった。悲しい記憶である。

### 常に前を向いて歩く

五十代の頃から、次第に左耳も聞こえづらくなってきており、時折鼻から耳に空気を通す治療を続けていたが、しだいに日常生活に支障をきたすようになった。

まのおかげと思うております。生かされております。一隅を照らすというたら、与えられた仕事をやる。とことんやる、下手は下手なりにやる、ということに尽きると思っております。

### ◎音のない世界に◎

「電話して、誰も出ないと心配で見に来ます」と博信さんがいう。一日一度は岩蔵寺に顔を出す。その博信さんには、ちよつと気になることがある。

岩蔵寺の本堂と仏像が放火によって焼失したのは、昭和五十九年である。当時、中村勝俊さんは先代住職の希望で岩蔵寺を兼務していた。

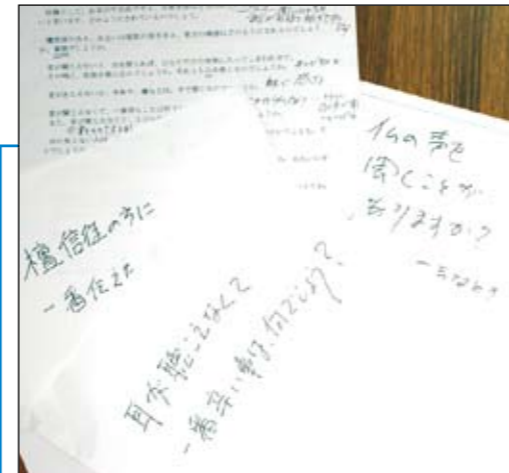
「放火犯も検挙されたが、そのショックと再建の責任が腫瘍発生の引き金になったのではないか。」

「手術の前に、役職は全部辞任しました。耳が不自由になってから、多少わがままになりましたでしょうかね。やはり淋しさはあるでしょう」と博信さんがいう。

### ◎掃除、挨拶、勤行◎

中村さんは昭和二十六年に比叡山の無動寺で修行をした。「ものない時代で、おかげばかりで参った。腹ばかり減らした。」

聴力を無くした今も、そうじは欠かさない。「今年は大変な台風が二度も来て、境内のそうじだけでも大変じゃった。有り難い。普通なら、引退じゃけど、こんな寺のことが出来ますけん。それでも檀家の人に『ご苦労様です』言われても、知らん



取材の筆談メモ

れば、そのまま一気に運んだりという方法があるが、今回は、質問や疑問を思いつけば、ノートを破って書き、答を聞きつつ、また書き、と忙しい。時々、中村さんは、こちらがまだ書いているうちに、それをのぞき込んで話し始めるから、ますます慌ただしい。

を聞いたということはない。それに、この状態で医者からは「頭に、音が聞こえたら、要注意」ち言われとるもん。岩蔵寺を辞す時に雨が降ってきた。博信さんが、佐賀駅まで送ってくれるという。勝俊住職が、お孫さんの手を引いて庫裡から出てきて、見送ってくれた。



「与えられた仕事をとことんやる」と言う中村勝俊さん。佐賀県・小城の岩蔵寺で

文・天台宗出版室編集長 横山 和人

### お便りを下さい

あなたの周りでの出来事、ご感想をお送り下さい。また、取材について「こんな出来事、あんな人々」をお知らせ下さい。封書、FAX、Eメールで、天台宗出版室まで。連絡先は、題字横です。FAXは、077-578-4814

# 水掛不動尊を建立

## 一寺一願事業の一環として

兵庫教区第三部の普光寺(上中祐俊住職)では、伝教大師生誕の日当たる八月十八日、水掛不動尊並びに摩尼車二基の開眼法要を執り行った。

この不動尊像と摩尼車は、開宗千二百年大法会の一寺一願事業の一環として建立された。

たもので、普光寺檀徒三名の篤志によって寄進された。同日の開眼法要は部内法類組寺住職の総出で営まれ、寄進者三名には上中善信同寺名譽住職から、天台座主猊下の表彰状と記念品が贈られた。同寺に湧く山水は、蓬萊の水と呼ばれ、名水を求めて



各地から多くの人々が訪れる。その名水を掛けて信仰心を深めてもらおうと「水掛不動尊」となった。

上中住職は「開宗千二百年

を迎えるの記念にこうした御寄進をいただいたことに本当に感謝しております」と開眼法要の喜びを語っていた。

(報告・大塚眞哲通信員)

# 比叡山で夏期講座を開催

## 一般学生対象の研修会も

—東京・大正大学—

九月一日から七日までの一週間、比叡山居士林を会場に、大正大学(東京都豊島区)では、平成十六年度天台宗法儀研究夏期講座を開催した。約六十名が参加したこの講



法儀実習に臨む大正大学の宗内学生(延暦寺・西塔で)

座は、宗内生を対象としており、法儀実習や声明、三塔巡拝などに取り組んだ。期間中は、同校の教授陣も寝食を共にし、様々な法要の所作、意義等について細かな指導が行

# 宗教サミットの宗務総長

## 江田廣典大僧正を悼む

出版室長 和 藤秀工

元宗務総長であった江田廣典大僧正が九月六日ご遷化された。八十八歳だった。大僧正は、宗務所長歴が長く、周囲からは「埼玉の江田天皇」と畏敬されていたほどの実力者であったから、初対面の時は随分緊張したものである。しかしざつとばらんご性格

で、雨の日などは、作務衣にゴム長というスタイルで、びつくりしたこともあった。天台宗のことになると真剣そのもので、深夜まで語られ、翌日朝起きるなり、また語られるという熱情に圧倒されっぱなしであった。



追悼

冗談が好きで、いつも周りを笑わせておられ、また華やかな場所もお好きであったが、時折孤独の影がさすことがあった。それは、農家の次男に生れ

て、埼玉県大光普照寺に弟子入りされたこと、無関係ではなかったのかもしれない。本堂と庫裡の掃除をして、師匠の朝膳を出してから、学校に行く。朝、五時に起きても、遅刻はしよっちゅうだったという。「冬の雑巾がけは、手がしびれてなあ。兄弟子が五人いたから、ずいぶん辛い思いをした。そのことが、なまかななことでは挫けない根性を養ってくれた」と語られていた。今も、お寺の小僧さんは、厳しい修行をするが、当時の比ではない。師匠は金鑽廣謙師で、書のうまさも師僧ゆずりであった。

宗務総長を辞任されて、しばらくした頃、長徳寺にお伺

いしたが、奥様と二人で炬燵に入って、お茶を飲む姿は、屈託なくて楽しそうであった。天台座主の諮問機関である宗務顧問会会長のご要職をお勤め頂いていたが、訃報に接して、ただ、ご冥福を祈るばかりである。

杜多信雄宗務総長の急逝をうけて、総長に就任され、一九八七年、第一回の比叡山宗教サミットを成功に導いた。江田総長のご功績は、天台宗史に永く刻まれる。

密葬は、九月九日、しめやかに営まれた。本葬儀は、十月二十三日、午後一時から、埼玉県川越市の長徳寺で執行予定。

# 天台トピックス

## ◎天台十七団を承認

スカウト連合協議会(幹事盛理事長)では、八月三十日の理事会において、愛知連盟祖父江第一団を、天台ボーイスカウト第十七団に承認。

## ◎研修会・総会を開催

人権擁護委員会(加藤良文会長)では、九月一・二日、京都市を会場に、平成十六年度の研修会総会を開催、十五名が参加。多民族共生人権教育センターの李美葉理事長を

## ◎台教連中央研修会開催

講師に、韓国チームの陰に潜在する在日コリアンが直面する差別の現状が話された。

## ◎台教連中央研修会開催

学校教職員連盟(岡山亮徹会長)では、八月二十六・二十七日、京都真如堂山荘を会場に平成十六年度中央研修会を開催、二十名が参加。絵本作家の永田萌さんの講演や質疑応答があった。

## ◎保育大会を開催

保育連盟(菅原光理事長)

# 参拝団募集

平成一十七年六月二十五日落慶式。参拝期間は六月二十四日〜二十九日まで。ヒルトン・ニューヨークク。募集人員百名。詳細は後日発表。(天台宗海外伝道事業団)

# サマースクールを開催

## 坐禅やウォークラリーに挑戦

京都仏青

去る八月二十五日から二泊三日の日程で、京都仏教青年会(若林節哉会長)は、加古川市立少年自然の家を会場に恒例のサマースクールを行った。小学三年生から中学二年生までの四十五名が参加し、仏青会員と学生がリーダーを務めた。



クラフトに挑戦する参加者

# 祝 新任職任命

【兵庫・正福寺】熊谷圭講師  
【埼玉・長徳寺】江田昌弘師  
【北総・龍正院】高野慈泉師  
【福島・徳寶院】菅野英俊師  
(平成十六年八月二十二日、平成十六年九月二十四日、法入部調)

参加者たちは、来年も参加したいと口を揃え、中には「リーダーはお坊さんなの?」と尋ねる声もあり、僧侶という堅いイメージから親近感に変わる好機となった。

(報告・本郷泉観通信員)

われた。またこれに先立ち同校では、八月二十一日から二十四日まで居士林を会場に、平成十六年度夏期仏教研修道場を開催、約四十名の一般学生が参加した。坐禅止観や写経、回峰行コースでの三塔巡拝、記念植樹等も行われ、初の仏教研修に戸惑いを見せながらも、充実した研修を終えた。

## 開宗千二百年 記念企画展 『回峰行と聖地葛川』

この秋大津市歴史博物館で開催

十月六日から、十一月十四日まで、開宗千二百年記念企画展「回峰行と聖地葛川」が大津市歴史博物館において開催される。この企画展では比叡山回峰行の聖地として知られる葛川明王院の所蔵する文化財、文

書などが紹介される。十月十六日には「千日回峰行について」と題する光永覚道師(南山坊住職)の講座もある。問い合わせ先:大津市歴史博物館(電話 〇七七・五二・二〇〇)

### 延暦寺で別請豎義厳修される

#### 新探題に森川師、新已講に大樹師

去る九月二十八、二十九の両日、比叡山延暦寺大講堂において別請豎義が厳かに執り行われた。

別請豎義とは天台宗の法階の最高位である探題に昇るための最後の関門といわれる重要な法儀で、延べ十四、五時間に亘り、信仰と学問について論議が続く厳しい法儀である。



森川 宏映 師



大樹 孝啓 師

今回の別請豎義には已講である森川宏映大僧正(昆沙門堂門跡主)と擬講である大樹孝啓大僧正(兵庫教区圓教寺住職)がそれぞれ、主役である問者、賢者の大任を無事務め、森川大僧正が新しく探題に、大樹大僧正が已講へと上任されることとなった。両師は次に行われる法華大会の大役を務めることとなる。

### 『静寂の世界も体験』

#### 一般向けに回峰行や坐禅修行

—東海仏教青年会—



東海仏教青年会(酒井圓弘会長)は、九月四日、静岡県周智郡森町の蓮華寺において「プチ回峰行」や「坐禅」森町秋の寺・蓮華寺」と題する修行会を開催した。この修行会は、近年、若年層をはじめ仏教に無関心な人

のとなった。午前十時過ぎ、蓮華寺観音堂で開講式を行った後、八形山まで七キロのプチ回峰行(写真)、再び蓮華寺に戻り、昼食後、住職の法話に続いて坐禅というスケジュールだった。参加者のほとんどは坐禅は初体験。足の組み方、呼吸法、禅杖(ぜんじょう)の受け方などにも興味があったよう

(報告・北川教裕師)

### 檀家制度の問題点を研究

#### 東海教区教師研修会

東海教区(村上円竜宗務所長)では、去る八月二十六日、名古屋駅前安保ホールを会場に「平成十六年度東海教区教師研修会」を開催、三十六名が参加した。午前十時の開講式から、夕刻六時の閉講までぎっしりのスケジュールであったが、参加者たちは暑さを忘れて熱心に受講していた。

研修内容は、教学、法儀をはじめ、人権問題、布教など多岐にわたるもので、中でも、第三講の井上治代天台宗総合研究センター研究員による「檀家制度の問題点と将来」という講義は、寺の維持運営に密接に関連する内容だけに、参加者は、真剣に聞き入っていた。

(報告・柴田真成師)

### 寺宝約百点を特別公開

#### 特別展「湘南の古刹 神武寺の遺宝」

川館 奈立 神保物 神保物 神保物

十月九日から十一月十四日まで、神奈川県立博物館で、特別展「湘南の古刹 神武寺の遺宝」展が開催される。

神武寺(逗子市)は、神亀元年(七二四)に聖武天皇の命により、行基菩薩が薬師・釈迦・観音の三尊を祀り開創され、天安元年(八五七)に慈覚大師円仁により法相宗から天台宗に改宗された。その後、鎌倉時代には源頼朝をはじめ幕府の崇敬が厚く、北条政子の安産祈願に際しての神馬奉納などが「吾妻鏡」にも記され、中世から近世にかけて北条家や徳川家とも深く関わり、法灯は今日に至るまで脈々

この特別展は、神武寺の遺宝を一堂に公開する初めての企画で、重要文化財の木造弁財天坐像や絹本着色千手観音像など、初公開を含め寺宝約百点が展示される。また、十月十七日には、鎌倉国宝館館長三浦勝男氏、十一月四日には東京工芸大学教授清水廣氏による講演なども行なわれる。



十一面観音像(神武寺蔵)

### デスクから

今月は「天台広報」になつてから、初めての正月特別号を編集する。本紙に加えて、カレンダーと兄弟誌「ともしび」が加わり、やたら忙しい。いづれも見本をお送りします。●ご注文お待ちしてあります。●今号から天台宗布教師各位の連載を始める。●各教区の通信員各位、また住職さんから記事が次々に送られてくる。すでに、組み上げた紙面を、重要性と日時を勘案しながら、移動し、削り、来月回しと判断しながら、ギリギリまで差し替えていく。「こんな出来事があるのだが、送ってもよいか」との問い合わせも数件あり。どうぞ、大歓迎ですよ。電話、ファックスでも、どんどんお送り下さい。締め切りは毎月十八日です。●東海教区の北川師、柴田師、兵庫教区の大塚師、神奈川教区の土屋慈道神武寺住職、大正大学、京都の本郷師より記事の提供を受ける。深謝。

### コンパス

#### 元天台宗宗務総長 杉谷義純



テロの嵐が世界中を吹き荒れている。九・一一のニューヨーク同時多発テロが、世界を震撼させたのは記憶に新しい。そして、本年三月十一日、

息子を失った父親の手紙の一部を紹介する。「息子は天国に行っている。だから、息子のために祈るのではなく、テロを実行した人のために祈ってください。彼らを支配している悪を、彼ら自身が乗り越えるために必要な愛を見い出せることができますように」。

この戦闘における自爆は殉教とされ、神の国で永遠の命を与えられるのである。だから、今世界で起こされている自爆テロは、宗教的背景があるというより、むしろイスラム教と直接関係のない報復活動だ。報復からは報復しか生まれないと、積尊も戒めており、決して展望は開けない。

### 自爆テロと人類の未来

スペインのマドリッドでの列車テロでは二百人の犠牲者を出した。さらにロシアの北オセチア共和国の学校占拠事件が先頃起きて、数百人に及ぶ生徒やその親が命を失うという悲惨な事態が生じた。

これらのテロの犯人はイスラム教徒だといわれているが、イスラム法では殉教と自爆テロとは峻別されて



3月11日、スペイン・マドリッドで起きた列車爆破テロ(©ライター・サン)

# 12月1日は天台宗全国一斉托鉢

「地球に慈愛(あい)の灯を！」をスローガンに、今年も12月1日に「天台宗全国一斉托鉢」を実施致します。毎年、全国で展開されているこの一斉托鉢は、大きな成果を上げており、その浄財は、地域還元のために社会福祉施設やNHK歳末助け合いなどに寄託致しております。

また、長期にわたり実施できるように12月を「地球救援募金月間」と定めております。一斉托鉢にご参加、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

参加・協力のお問い合わせは、最寄りの天台宗寺院または、一隅を照らす運動総本部(TEL 077-579-0022)まで。



## テーマは… 自己再発見

一隅を照らす運動総本部では、九月十五・十六日、第三回「心のつどいin比叡山」を、

一隅を照らす運動研修道場である比叡山西塔居士林(赤松光真所長)で開催。この集い



# 心のつどい in 比叡山

は「自己再発見」をテーマに、心や身体をリフレッシュさせることを目的としたもので、一般公募で募った二十一名が全国各地から参加した。

十五日、一隅会館前に集合した参加者は、根本中堂・浄土院などの講堂を参拝し、居士林に到着。開講式後、神戸学院大学教授で臨床心理士の日高正宏先生を講師に「心とからだ」と題した講演が行われた。

日高先生は、健康チェックの仕方、よく眠れる就寝前の運動やストレスの解消法などを披露、参加者は実際に体を動かしたりラックスする方法を学んだ。夕食では、僧侶の食事作法を体験。会話はもちろんのこと、一切の音を絶ち、水一滴も残さない厳しい作法に戸惑いを見せていた。

翌十六日は、五時起床、坐

## 災害対策本部へ 寺院婦人会が義援金

今夏、日本列島に上陸した台風は観測史上最も七個以上にも及び、各地に甚大な被害をもたらした。大きな爪痕を残した。

天台宗災害対策本部(西郊良光本部長)では、災害被災地の調査や現地視察、支援活動を継続的に行なっている。先頃の台風十八号は、十五号・十六号の跡をなぞるよう

## 北海道大会開く ~西郊宗務総長が講演~



禅止観と朝講たちこめる中での作務、お粥に味噌汁という質素な食事を済ませ、慣れない筆での般若心経写経にも悪戦苦闘。最後に千日回峰行者酒井雄哉師が、いのちの大切さや自然との共生、厳しい

修行体験を語り、一同は感銘を受けていた。

二日間にあたる修行研修を終えた参加者は、修行体験や作務を通じて自分を見つめ直す絶好の機会だったと話していた。

に進み、記録的な暴風に巻き込まれ猛威をふるった。対策本部では被害の大きかった、兵庫・岡山・九州東・九州西教区、また九州地区の玄清法流寺院へ、見舞金と見舞い品のタオル数百本を手渡した。

また、天台宗寺院婦人連合会(大沢和世会長)では、災害被災者に対して義援金を送ることを決定し、九月十四日



天台宗事務所に於いて、西郊本部長に、義援金三十万円を手渡した(写真)。

去る八月十六日、北海道本部(山口道雄本部長)では、札幌市の天台三井寺を会場に、一隅を照らす運動推進大会を開催、約二百六十名が集

理解を求め、参加者は大いに感銘を受けていた。

当日参加者から集められた浄財五万五千五百円は、地球救援募金事務局に寄託された。

大会では、西郊良光天台宗務総長が「一隅を照らす」と題し講演。西郊総長は、一隅を照らす精神と運動の重要性、また一隅精神に基づく活動、特に国際社会における天台宗の救援活動の現状を講演し、活動への

## 素晴らしき言葉たち

Wonderful Words

「動物たちの恐ろしい夢のなかに」

犬も 馬も 夢をみるらしい

動物たちの恐ろしい夢のなかに人間がいまぜんように

川崎弘「祝婚歌」 (山梨シルクセンター出版部刊)

夏の盛り、日差しがジリジリと照りつける中、蟻が行列を作って何やら一所懸命に働いています。

幼い子がそれを見つけてじっと見えています。すると突然、その子は、蟻の行列を足で踏みだします。母親は言います。「蟻さん、かわいそうに。お父さん、お母さんにもう会えなくなっちゃった」。子どもはハッと気が付きます。蟻が自分と同等の生命を持った存在であることに。こうして命の尊さを学びながら、人は成長していくのですが、なかなか人間中心の生命観から逃れられない。

それにしても、動物たちは人間のことをどう思っているのでしょうか。

### 各地の推進大会

掲示版

滋賀大会	時：10月9日(土) 13:00~
日会	場：守山市ライズヴィル都賀山 守山市浮気町 300-24
講師	赤松 光真師 (延暦寺一山金台院住職)
京都大会	時：10月18日(月) 13:00~
日会	場：真正極楽寺 真如堂 京都市左京区浄土寺真如町 82
講師	松原 哲明師 (臨濟宗妙心寺派龍源寺住職)
近畿大会	時：11月14日(日) 11:00~
日会	場：本山寺 高槻市大字原 3 2 9 8
講師	真嶋 康祐師 (延暦寺一山乘実院住職)